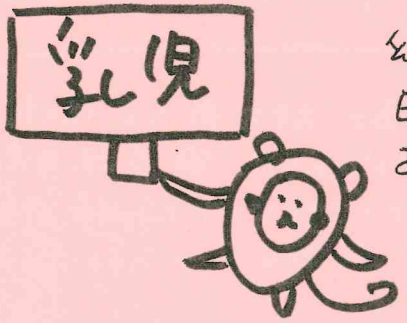
乳児



幼児でも乳児でもあそびを通して日々成長していることにはかわりがありません。遊具の力をかりながら主体的なあそびを引き出す…。そんな時子どもの成長や発達に合った遊具を提供していきたいのはより乳児の方がはっきりしているかも知れませんね。

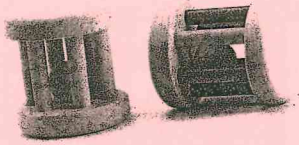
そこで…

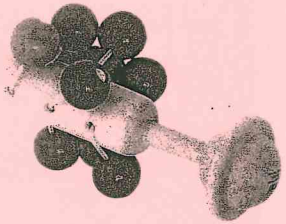
どんな時期にどんなものがいいのか。

ほんの一部ですが、実際にクラスで使っているものを御紹介します!!

新生児から6ヶ月頃

このクロスボールは
この部分1つ1つの
生地の違い…つまり
肌触りがちがうこと
また中に音のなるものが
入っている場所もあり この
音で何人の子が興味を持ち
泣きやんだかわかりません。



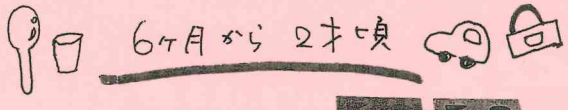


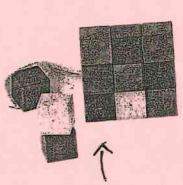
これらのものは手首の力がついて
くると握ったり何となく
振ったり指が触れて音が
なったり。特にこの
ドリオという遊具は口の中で
玉をコロコロし感触をたしかめる
大人気の遊具です。

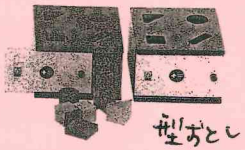
この他にも保育園には
手作り遊具がいっぱい!!
ほとんど園の大人の手作り
なので興味のあるモノが
あったら声をかけて下さい♪

指を絡ませてあそび不思議そうにじ――っと自分の手を見つめる赤ちゃん。
何度も試すようにくり返しながら見えている手足が自分の身体の延長であることがわかってきます。ふと遊具に触れたり、握ったり、口に入れたりすることで『もの』の存在に気づいたらまた新しい世界が広がります。

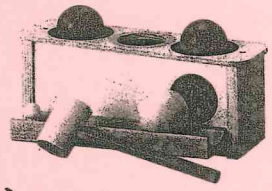
6ヶ月から2才頃







型おとし

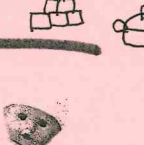


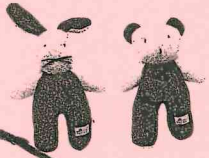
ベビーキューブは1つ1つに違う音のなるものが入っており0才児はそれを並べただけだったのが大きくなると音の違いを感じとり分けてみたり上に積むようになっていきます。

うまくつかめず力だけがかかって球がポトンと落ちることがあります。「あれ!? なくなった!」と思った矢先ひょこっと箱の中から出てきます。『見えなくなっても無くなるのではない』と気づかせてくれる遊具です。

同じあそびをくりかえすのが子どものあそびの特徴であり、この中にこそ「わかる」ことの秘密があります。子どもは手を使って自分の力でわかっていく…自分の手でくりかえしくりかえしあそび、あそび尽くしていくのです。何度もくりかえすのはそれが更なる満足感や情緒の安定につながっていくから。自分自身の手でわかることが大事となります。

1才半から4才頃





自分がされることと同じことをやってみたい世話あそび。幼児も乳児もよくあそびます。乳児により肌触りよく抱きやすいものを好んでいるようです。

パズル類や重ねカップも集中してできるようになっていきます。1つ1つのパーツがはっきりしている一層のものや色や大きさが5段階あるものに色や大きさを比べることもできます。

子どもは自分で考えるのが好きです。
そしてこの頃はぐうと心が育ち分かる喜びを感じ、様々な社会にも出会っていきます。ごっこ、お世話、ルールのあるゲームそして誰かと「一緒」も楽しめるようになっていきます。